

きつと大丈夫

明日へ踏み出す物語

1月末、東京デフリンピック陸上男子走り高跳びで5位入賞の佐藤秀祐選手(21)＝平林金属＝は岡山県総合グラウンドの補助陸上競技場(岡山市北区いずみ町)で踏み切りや空中姿勢の確認を入念に行っていた。

スマートフォンで動画を撮りながら見つめるのは福本幸監督(49)。世界を舞台に活躍したジャンパーだ。今は筋力やパワーを強化する土台作りの時期。「4年後のデフリンピックで確実に金メダルを取るため段階を踏んでいる。東京大会では本気でやって悔しさを経験した。伸びしろしかない」と話す。

福本監督にとって、初めての聴覚障害者の教え子となった秀祐さん。接し方に不安があったことから「お試し期間」を設けて指導すると「何も気にすることは

⑦ 障害って

不便だけど不幸ではない

なかった。障害の有無は関係ない」と分るはず。一番持っているのは「運」と断言した。一緒に練習する小川優生さん(20)や監督との間には障害は見当たらない。同じ場所で練習している高校生も同じだ。秀祐

かかった。福本監督に秀祐さんの評価を聞くと「素直」と即答。「会社の応援もあり、周囲に育ててもらっている。同じ場所でも千優さんなどを解説し、千優さんは右から話しかけてくれると聞き取りやすいことなどを書いた。同じ障害でも人それぞれ違いがある。

さんは自分から話しかけることを理解している。け、バーの高さの調節やマットの位置の変更などをホワイトボードに書いた時には身ぶり手ぶりで依頼。高校生も当たり前のように接していた。

同様に聴覚障害がある姉の千優さん(24)は現在、岡山県立誕生寺支援学校(岡山県久米南町)の教諭を務めている。耳が聞こえない人を先生にするなんて」と苦情が出ることも心配したが、それもなく「子どもがかわいしいし、毎日楽しい」と笑顔を見せた。

職場では、自分の障害や自閉症のある人たちが輝けるよう奮闘する団体「取扱説明書」を作った。障害や耳の構造を取り上げます。

次回からは、知的障害

岡山県立誕生寺支援学校で教師として活躍する佐藤千優さん(提供写真)

